【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成21年3月5日(2009.3.5)

【公開番号】特開2007-195499(P2007-195499A)
【公開日】平成19年8月9日(2007.8.9)
【年通号数】公開・登録公報2007-030
【出願番号】特願2006-19905(P2006-19905)
【国際特許分類】
Ａ０１Ｋ　77/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ０１Ｋ　77/00　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成21年1月16日(2009.1.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
所定の対象物を内部に保持可能な袋状の網部と、
その網部の上端周縁の一部から突出し、網部の直径よりも短く形成された柄と、を備えた玉網であって、
前記玉網の重心が前記柄において網部を立ち上げやすい箇所となるように形成されていることを特徴とする玉網。
【請求項２】
前記玉網の重心は、前記柄の前端から後端までに位置するとともに、前記柄の前端から重心までの長さが柄の全長の６．３％から２３．８％の範囲に位置するよう形成されていることを特徴とする請求項１記載の玉網。
【請求項３】
前記玉網の重心は、前記柄の前端から後端までに位置するとともに、前記柄の前端から重心までの長さが柄の全長の１５．９％から１９．０％の範囲に位置するよう形成されていることを特徴とする請求項１記載の玉網。
【請求項４】
前記柄の後端付近には、柄の比重よりも大きな比重の重りを取り付けたことを特徴とする請求項１から請求項３のいずれかに記載の玉網。
【請求項５】
前記重りは、前記柄に対して着脱自在に形成されていることを特徴とする請求項４に記載の玉網。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
（請求項２）
請求項２に記載の発明は、請求項１記載の玉網をより具体的に限定したものである。すなわち、前記玉網(1)の重心(G)は、前記柄(20)の前端(22a)から後端(23a)までに位置す

るとともに、前記柄(20)の前端(22a)から重心(G)までの長さが柄の全長の６．３％から２３．８％の範囲に位置するよう形成されていることを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
（作用）
玉網(1)の重心(G)を、柄(20)の前端(22a)から重心(G)までの長さが柄の全長の６．３％から２３．８％の範囲になるように、玉網(1)の全体を形成する。このようにすれば、玉網における網部(10)を立ち上げる操作性が向上する。これにより、釣り人が飛んでくる魚を受け止める際に、網部(10)を立ち上げて構える操作を円滑な動きとすることができる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
（請求項３）
請求項３に記載の発明は、請求項１記載の玉網を限定したものである。
すなわち、前記玉網(1)の重心(G)は、前記柄(20)の前端(22a)から後端(23a) までに位置するとともに、前記柄(20)の前端(22a)から重心(G)までの長さが柄の全長の１５．９％から１９．０％の範囲に位置するよう形成されていることを特徴とする。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
（作用）
玉網(1)の重心(G)を、柄(20)の前端(22a)から重心(G)までの長さが１５．９％から１９．０％の範囲になるよう設定する。柄の全長の１５．９％から１９．０％としたのは、複数の釣り人による玉網の操作性サンプルデータから抽出したものであり、請求項２で限定した重心(G)までの長さの範囲よりも、汎用的な範囲であるからである。このようにすれば、釣り人が飛んでくる魚を受け止める際に、網部(10)を立ち上げて構える操作を円滑な動きとすることができる。